

「農林水産省とれたてニュース」

夏休みの
自由研究に、ぜひ!

「子ども霞が関見学デー」、今年も2日間開催!

東京・霞が関に集まる府省庁などが連携して、省内見学や日ごろの業務内容を楽しむ、わかりやすく説明する「子ども霞が関見学デー」。このイベントは、子どもたちが社会の動きや国内外で話題になっていることについて、広く知ってもらおうを目的に毎年開催されています。今年は8月6日(水)、7日(木)の2日間にわたり開催されます。

農林水産省のテーマは、「来て、見て、体験!」~ようこそ!農林水産省へ~。開催予定の主なイベント内容は、次のとおりです。

●大臣室、記者会見室を見学してみよう! ●遊んで学ぼう!農林水産業と環境のエコなつながり ●「食べ物をたのしく科学してみよう!」 ●しょうゆの知り博士の出前授業 ●花育教室 ●見て、触って、味わって、お茶の魅力! ●子ども霞が関木工教室 なお、各地方農政局などでも各種夏休みイベントが開催されています。

《子ども霞が関見学デー》

日時/平成26年8月6日(水)、7日(木)、10時~16時

受付場所/農林水産省本館正面玄関、本館南玄関、北別館玄関

受付時間/10時~15時45分

受付で「日本国霞が関子ども旅券」と「農林水産省イベントガイド」を受け取り、各イベントガイド会場を見学してください。

※事前予約が必要なイベントの予約受付は、終了しています。

http://www.maff.go.jp/j/kids/k_d/index.html



昨年、農林水産省には親子連れを中心に、6327名の見学者が
上) 林大臣が、大臣室で子どもたちと
歓談する場面も
左下) 木工教室ではマイ箸を製作中
右下) フラワーアレンジメント体験では、
専門家がやさしく指導

あふも
パパ、ママと
行くわ



放射性セシウムに関する情報について

農林水産省のホームページ

(東日本大震災に関する情報)をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/>

携帯電話用ホームページ

<http://www.maff.go.jp/mobile/>

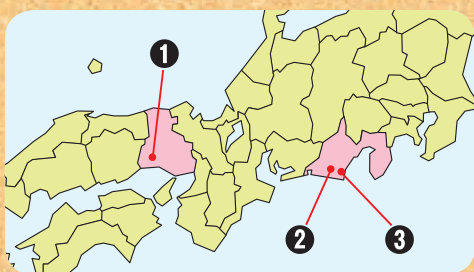


広報誌aff(あふ)の 感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。 <http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/>



今回取材した地域



特集1 ①兵庫県たつの市(株式会社ささだ農)
チャレンジャーズ ②静岡県菊川市(株式会社サングレイス)
特集2 ③静岡県御前崎市(御前崎港など)

読者の声

「aff」読者から寄せられた
ご意見やご感想を紹介します。

◆海岸防災林、約140キロを再生中が掲載されていたが、自分も協力したいと心より思いました。塩害や飛砂などから人々を守ってきたということなので、もう一度再生させるためにボランティアとして参加するつもりです。(男性)

◆食育という言葉は最近では子供を通じて接する機会が多いが、世界遺産である「和食」といい日本の誇るべき文化としてこれからも子供たちと一緒に考え学んでいきたい。(女性)

◆食育特集とてもよかったです。食育は生きていくうえで非常に大事な教養、知恵だと思いますが、それに気づいたのは社会に出てからでした。いまの子供たちにはもっともっと食育の機会を与えてほしいです。affを通じて農業、漁業の大変さ、大切さを学びました。1つ1つの食材に丁寧に向き合おうと思いました。(女性)

◆特集「みんなで広げよう…」は、調査による数値が記されていて客観的資料として良かったと思います。またtopicsの「オーライ!ニッポン大賞」は募集対象が広く、農業・農家の士気の高まりや農業・農家への理解もより進みやすくなると考えられますので期待いたします。(女性)

◆植物防疫官のお仕事は、身近な果物でも持ち込めないということが分かり驚きました。でも、害虫や病気が持ち込まれると確かに大変なので、こういう仕事があることは重要だと思いました。(女性)

次世代施設園芸プロジェクト・マップ

兵庫県次世代施設園芸モデル地運営協議会

兵庫県 加西市

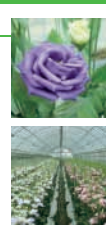
トマト(4ha) 木質バイオマス
統合環境制御技術により、10a当たりのトマトの収穫量35tが目標。大型チップボイラーで低コストのエネルギー供給。年間を通しての生産による、雇用の安定と長期研修生の受け入れによる人材育成。



富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点整備協議会

富山県 富山市

トマト(1.2ha)
トルコギキョウ、ランタナ、カンパニュラ(1.2ha)
廃棄物由来燃料
安定的に供給される廃棄物発電と廃熱の利活用。稲作地域における、大規模施設園芸のモデル的導入。



北海道次世代施設園芸コンソーシアム

北海道 苫小牧市

イチゴ(4ha) 木質バイオマス
夏季の冷涼な気候を生かした、イチゴの年間を通じた栽培や、高度な環境制御技術により10a当たりの収穫量10tが目標。



石巻次世代施設園芸コンソーシアム

宮城県 石巻市

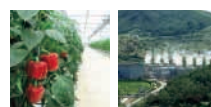
トマト(1.2ha)
パプリカ(1.2ha)
木質バイオマス
次世代施設園芸の実践による農業復興の加速化。オランダの高度な栽培技術を取り入れ、地域エネルギーとして木質バイオマスと地下水を利用。



大分県次世代施設園芸推進協議会

大分県 九重町

パプリカ(2.4ha) 温泉熱
温泉熱を活用した、大規模施設園芸の実践。高度な環境制御技術による国産パプリカの年間を通じた安定供給。



富士小山次世代施設園芸推進コンソーシアム

静岡県 小山町

高糖度トマト(3.2ha)
高糖度ミニトマト(0.8ha)
木質バイオマス
豊富なバイオマス、日照、交通インフラなど地の利を生かした、高糖度トマトの年間を通じた栽培と雇用機会の創出。コンピュータを活用した、複合環境制御による生産性の向上と、マーケティングによるブランド化。



埼玉次世代施設園芸コンソーシアム

埼玉県 久喜市

トマト(4ha) 木質バイオマス
低段密植栽培技術で10a当たりのトマトの収穫量30tが目標。高度なコンピュータ技術であるユビタス環境制御システムを大規模に導入。



宮崎中央地域次世代施設園芸地運営コンソーシアム

宮崎県 国富町

ピーマン(2.3ha)
きゅうり(1.8ha) 木質バイオマス
高度なコンピュータ技術を活用した、生産性の高い栽培管理システムの構築。JAの担い手育成システムと連携し、大規模・集約化のモデルとして地域への波及。



高知県次世代施設園芸地推進協議会

高知県 四万十町

トマト(4.3ha) 木質バイオマス
おが粉を利用した、大型木質バイオマスボイラーの導入による、化石燃料の使用量の削減。隣接する担い手育成センターと連携し、拠点の成果を地域の農業者に普及。



東北の復興のモデル施設として、
成果をPRしたい
開始した次世代施設園芸プロジェクトのひとつが「石巻次世代施設園芸コンソーシアム」。宮城県石巻市を拠点に、平成26年5月1日に立ち上げられました。農業法人「デ・リーフデ北上」のほか、石巻市や流通業者など7団体が構成員となり、年度内に用地整備ができるよう事業を進めています。

「県は、コンソーシアムの一員として、事業がスムーズに進むよう関係機関と一緒に進捗管理や、調整などを行います。とくに、今年度からは『先進的園芸経営体支援チーム』を県の試験研究機関に設置し、支援しています。また、オランダから技術者を招き、複合的環境制御技術やシステム管理技術の指導を受けることになっています」と話すのは、宮城県農産園芸環境課の阪本松男さん。

また、宮城県は東日本大震災で、甚大な被害を受けたことから、「単なる復旧にとどまらない、創造的な復興を目指しています。この取り組みはまさに先進的な施設園芸を目指して、県の復興の方向性にも合致しているの、しっかり支援していきたいと考えています。また本県だけではなく、被災した東北全体のモデル施設としてPRしていきたいですね」と意気込みを熱く語ってくれました。

すでに各拠点とも、使用するエネルギーや育てる作物を決定し、次世代園芸施設の整備に向けて着々と動き出しています。